

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 福島県 】

学校名【 福島市立吉井田小学校 】

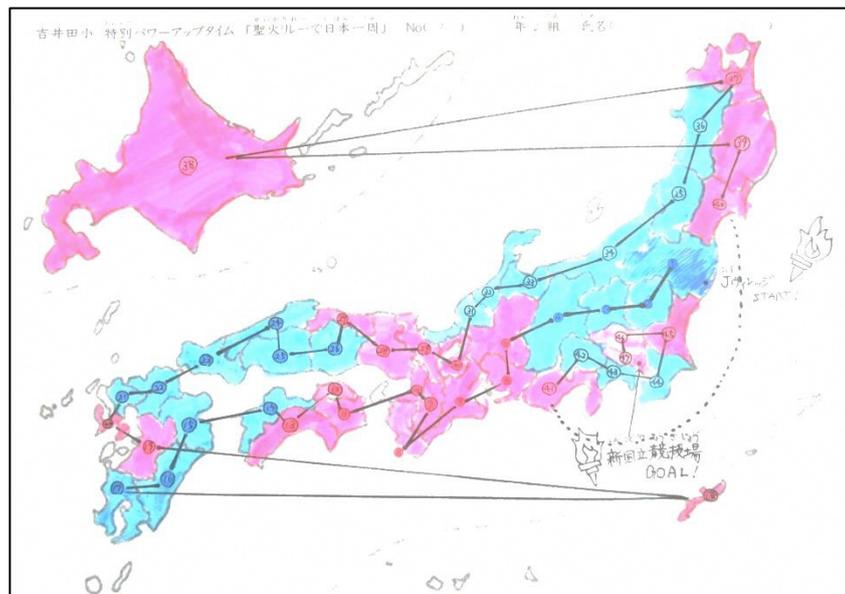
1 実践テーマ	①・II・III ④・⑤(複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	全児童(461名)
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名(社会科・家庭科・体育科・道徳・総合的な学習)</p> <p>② 行事名(運動会(吉井田オリンピック2019))</p> <p>③ その他()</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名(聖火リレーでの演奏:本校マーチングバンド 3月予定)</p> <p>② その他()</p>
4 目標 (ねらい)	<p>「オリンピック・パラリンピックで 吉井田っ子が 輪になる心」</p> <p>○ 自らの目標をもち、自らのベストを目指す子ども</p> <p>○ スポーツに親しみ、徳・知・体の調和のとれた子ども</p> <p>○ 日本人としての自覚と誇りをもち、自ら学び行動できる子ども</p>
5 取組内容	<p>○ 運動会の工夫(全校生)</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎年春に行っている運動会の内容を、オリンピック・パラリンピックの視点から見直し、昨年度に引き続き「吉井田オリンピック」を実施した。特に、開会式や競技種目の内容について創意工夫して実施した。 入場行進前に本校マーチングバンド部員による東京オリンピック・ファンファーレの演奏を行った。開会式後に準備運動を兼ねて「東京五輪音頭-2020-」と<NHK>2020 応援ソング「パブリカ」を使用したダンスを全校生と教師で行った。 東京2020大会のマスコットやピクトグラムを使用したり、競技内容を工夫したりするなど、各学年の種目に、オリンピック・パラリンピックを強く意識したものを取り入れて行った。 子どもたちによる運動会スローガンを作成する中で、特に「模擬聖火リレー」を意識した文言がまとまった事を受け、模擬聖火をデザインしたカードに各学級のめあてを書き、校内に掲示した。また、会場内に手作りの模擬聖火台を配置した。 子どもたちのオリンピック・パラリンピックへの機運が盛り上がりるとともに、特に、パラリンピック競技種目への興味・関心が高まった。また、保護者への啓発にもつながった。運動会当日だ

けでなく、当日までの練習過程に大きな効果が見られたのが収穫だった。



○ 持久走記録会のチャレンジカードの工夫（全校生）

- ・ チャレンジカードの内容を変更して実施した（過去2年は、ホストタウンのスイス連邦を紹介するカード）。今年度は、カードに日本地図を配置し、走った距離に応じて、東京 2020 オリンピック聖火リレーで巡回する各都道府県をリレールート通りに進むようなカードを作成して行った（福島県スタート東京都ゴール）。
- ・ 11月に実施した持久走記録会では、各学年の子どもたちが目標をもって取り組み、自己ベストを目指して全力で走る姿が見られた。



○ ボッチャ体験教室の実施（4・5・6年生）

- ・ 福島県障がい者スポーツ協会夢支援員の丸山内雄大さんを招聘し、パラリンピックについての講話をいただくとともに、ボッチャ体験教室を実施した。
- ・ 実際にボッチャを体験して子どもたちは、「思ったよりも難しかった」「球技は得意ではないがとても楽しくできた」などの感想を得、パラリンピックへの関心を高めることができた。



○ ベトナムのお菓子作り（6年生）

- ・ 昨年度に引き続き本校栄養教諭の協力により，家庭科で「ベトナム風揚げバナナ」の調理実習を行い，今年度からホストタウンとなったベトナムの食文化への関心を高めた。



○ 生け花体験教室（6年生）

- ・ JA ふくしま未来の学校教育支援事業花育コースを活用し，社会科学習の一環として実施した（現代にもつながる室町文化の体験）。

生け花の歴史を学び，実際に生け花を体験することを通して，子どもたちは日本の伝統文化のよさにふれるとともに，おもてなしの精神を養う一助となった。



○ オリンピック・パラリンピックの調べ学習（4年）

- ・ グループ毎に、オリンピック・パラリンピックの歴史や競技種目、メダルのデザインなどのテーマを決め、オリンピックやパラリンピックについて調べる学習を実施した。調べた内容は模造紙に新聞形式にまとめ、校内に掲示した。

子どもたちは、オリンピック・パラリンピックの新たな知識を増やすとともに、日本で開催されることや一部競技が福島市で開催されることに誇りをもつことにつながった。



○ 学習発表会における古関裕而に関する発表（5年）

- ・ 『東京オリンピックマーチ』『栄冠は君に輝く』などの作曲者として有名な、福島市のおもてなし大使古関裕而について調べた内容を劇と音楽で発表した。古関の生涯について劇で表現するとともに、『栄冠は君に輝く』を歌とダンスで表現、来年度NHK朝の連続ドラマで放映予定の「エール」にちなみ、いきものがかりの『エール』を合奏した。

子どもたちは、郷土の偉人についての知識を深めるとともに、夢に向かって努力することや、諦めない気持ちの大切さについて気付くことができた。



<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今年度の運動会の取組について、大会組織委員会主催の「東京2020 みんなのスポーツフェスティバル（春）」に応募した。その結果「優秀賞」に選ばれるとともに、「日本スポーツ協会賞」をいただくことができた。このことは子どもたちの励みとなり、次年度へのさらなる取組への意欲や、東京2020大会への関心を高めることにつながっている。 ○ ボッチャ体験教室により、パラリンピック競技を身近に感じる事ができた。ホストタウンのベトナムへの関心を高めることができた。生け花教室を通して、自国の文化について理解を深めるとともに、外国のお客様を迎え入れる側としての気持ちが高まった。
<p>7実践において工夫した点（事業の特色）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ オリンピック・パラリンピック教育全体計画を作成し、各学年の発達や教科等の指導内容に関連させた実践内容を設定した。このことにより、教育課程への無理のない位置付けができています。 ○ 3年間の実践の積み重ねと反省を生かし、イベント開催だけでなく学習活動につなげている。
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ パラリンピック競技の体験を行いたい学年が多いが、用品等の確保が難しい。 ○ 学校規模の関係により、オリンピックやパラリンピアンへの招聘による授業は、高学年になることが多い。低・中学年での実践が課題である。
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ オリンピック・パラリンピック教育全体計画の見直し ○ オリンピック・パラリンピック競技の体験教室などの全校的展開 ○ ホストタウン（スイス連邦・ベトナム社会主義共和国）への関心や理解にかかわる学習